



Alma Mater

白陵

■白陵会事務局 〒676-0827 高砂市阿弥陀町阿弥陀2260(白陵高等学校内) TEL.079(447)1675(代) FAX.079(447)1677  
URL:http://www.hakuryokai.jp E-mail:info@hakuryokai.jp



### ～白陵会臨時総会開催～

この度左記の要領で臨時総会を開催させていただくことになりました。出欠のご連絡を同封ハガキでのご連絡をお願いします。(締切日四月二十七日)奮ってご参加下さい。尚、開催の経緯につきましては三ページをご参照下さい。

日時 二〇一九年六月二十二日(土) 十八時～

(十七時～受付)

場所 姫路商工会議所二F 姫路市下寺町四三

懇親会会費 五〇〇〇円

議題 年会費納入、年次総会開会に伴う会則変更

※当日姫路駅南口「バスターミナル」から姫路商工会議所まで送迎バスが運行しますのでご利用下さい。

〈送迎バス出発場所〉



マイクロバスにご乗車下さい。

運行時間
16:40 17:10
17:40

### ～白陵会名簿二〇二〇年版発刊～

白陵会事業の一つで、五年に一度作成しております白陵会名簿を今年の十二月に発刊を予定しております。前回同様名簿発行専門業者のサポートに作成を委託して作業を進めます。詳細につきましては三ページをご参照下さい。会員の方々の所在を把握し、会員同士で連絡を取り合いながら、相互の交流を深めるために、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いたします。



会長  
天野 泰文

## ご挨拶

会員の皆様におかれましては、平素より同窓会活動に格別のお力添えを賜り心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道地震、台風二十号被害といった日本国中に災害が立て続けに起こりました。いざという時の災害に対する備えが必要であることを痛感するこの頃です。

今年、本年五月一日平成天皇のご退位、徳仁皇太子の新天皇のご即位、それに伴う新元号の発表がなされるという我が国にとって新たな歴史のページが開かれ、希望に満ちた記念すべき年となると期待しております。

本会報は、例年十月に発行していましたが、臨時総会の日程及びその通知のため半年延期して発行することになったこと、今後の会報は毎年三月の発行になる予定であることをご報告いたします。従いまして、本会報は平成最後の会報ということになります。

昨年の学校関係では、夏の高校野球予選で、白陵高校は相生学院に八対五で初戦突破しましたという嬉しい報告がありました。神戸新聞に「一九年ぶり初戦突破」

とデカデカと書かれましたが、二回戦は姫路南に〇対七で負けてしまいました。今年こそ二回戦突破を目指して、頑張ってもらいたいと思います。

白陵会卒業生関連では、昨年二十九期生の岡田康裕加古川市長が大差で再選されました。本年度は、統一地方選挙・参議院議員選挙の年で、母校の地元では、兵庫県議会議員選挙、姫路市長・明石市長選挙、姫路市等の市会議員選挙があり、多くの白陵卒業生の立候補が予定されており、白陵会としても全員当選を目指し、できる限りの応援、バックアップをしてゆきたいと考えております。

わが白陵会につきましては、別稿で掲載されているとおり、白陵会会員が本年度卒業生を加えると九〇〇〇名を超えるに至っており、それに伴う将来の会報の印刷代、通信費の増大、在校生のクラブ活動への援助等による同窓会財源確保のための年会費導入問題、五年毎の白陵会総会へ移行問題等と同様に通年総会へ移行問題等と白陵会の会則変更の必要性が生じ、理事會、役員會等で議論を重ねた結果、年会費導入並びに通年総会への移行が承認され、それに伴う白陵会会則の変更をおこなうための臨時総会招集が決議されました。臨時総会の日程、場所等については、「臨時総会のご案内」とおりですが、会員各位におかれましては、臨時総会に出席いただき、新たな白陵会の発足に協力くださるよう切にお願い申し上げます。



校長  
宮崎 陽太郎

## 動きすぎとはいけない

今年度を振り返るとき、最初に思い出すのが自然災害です。その原因は温暖化だともいわれ、夏の猛暑の記憶が鮮明に残っています。

表題は若き哲学者、千葉雅也氏の本の題名で、そんな猛暑の日々に読みました。副題には「ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学」とあり、再コード化された束縛からの脱コード化に際し「動きすぎるな」と主張するものです。わけがわかりませんが、変化に開かれながらも、その動きに繋がりにすぎることなく「中途半端」に留まり続けるべしというこのようです。しかし、自由を求める人間の本性からは遠く思え、ではそもそも何をしたらいいのか（してはいけないのか）分からない、というのが読者の感想でした。

そんな折、太田圭亮氏（二十三期生）がイタリアのジョット弦楽四重奏団と県立芸術文化センターで共演するというので聴きに行きました。当日は九年ぶりに一回戦を突破した高校野球の、猛暑の姫路球場での二回戦（対姫路南高戦）。奮闘及ばず、残念ながらの敗退を見届けた後、

西宮北口に向かいました。コンサートの前に軽食を取ろうとたまたま立ち寄った駅近くのお店（沖繩料理）で、なぜか店の主人と仲良くなり、再来を約束し店を後にしました。生命感あふれるイタリア人のメンバー達と、彼らにうまく調和する太田氏。その演奏に心を奪われた私は、終演後に彼らと他数名を誘い、先ほどの店を再訪。そこではイタリア語と日本語と中途半端な英語や三線の音色の飛び交う歓喜の時間となりました。同行した譜久山氏（二十三期生）のおかげで、奇跡的に終電で姫路まで帰ってくる事ができた一日でした。

その折の音楽談義の中で、太田氏曰く、「彼らとの共演では、クリアーな音が出せることが第一条件。あらかじめこうしようという取り決めはない。そこで求められることは『動かない』こと。なるほど、各瞬間に最善のものを出すためには、メンバー達の「時間」がそろわないといけない。そろわず瞬間まで「動かない」ことができたとき、この上もなく調和したものが創出されるという事なのでしょう。

孫子の兵法に「四路五動」というのがあります。兵を動かす方向は前後左右だけではなく、場合によっては留まることも立派な「動き」だという教えです。このような柔らかな考え方は、古今東西の達人の知恵に共通するものなのかもしれません。

臨時総会のご案内

白陵会会員が年々増加し、本年度卒業生を加えると九〇〇〇人を超えるに至っております。それに伴う将来の会報の印刷代、通信費の負担増大が予想され、また後に述べる通年総会へ移行した場合の総会費用、更に現在行われている各期同窓会、クラブOB会の補助の外に在校生の運動部・文化部のクラブ活動における用具や設備の補助、遠征への援助など新たに積極的な幅広い同窓会活動を目指した場合、更なる財政的裏付けが喫緊の課題となっております。

白陵会の年間収入は、「平成二十九年度収支決算報告書」記載のとおり、毎年卒業生からの同窓会加入に際し、一万五〇〇〇円を終身会費としていただいております。年間総額二六〇万円前後が同窓会の主たる財源です。現在の収入状況では、前記同窓会活動及び今後の母校の大規模事業や記念行事等に対する同窓会としての支援等にも支障をきたすとの結論に達しました。そこで、平成二十九年七月の役員会において、新たに会費制導入問題について提案がなされ、会費問題プロジェクトチームを構成し検討を加えた結果、当同窓会収入増加案として、卒業生徴収会費一万五〇〇〇円を更に増加することや協賛金名目で毎年寄付を求める案も検討しましたが、卒業生に更なる負担を強いるこ

とは困難であること、毎年寄付を募っても大幅な収入増加が見通せないこと、同窓会活動に更なる理解と協力を求める意味において、又姫路西高など他校の同窓会も年会費によって活動していること等を勘案し、近い将来、年会費制（年額三〇〇〇円程度）を導入し、卒業生から徴収する一万五〇〇〇円の会費については五年間の「年会費の先払」との位置づけにするのが妥当であるとの答申を得ました。これに基づき、平成三十年六月二十二日の理事会において、同P.T.答申に基づく会費制導入が議決され、同時に白陵会総会についても五年毎の総会の再検討がなされ、総会を毎年おこなうことも決議されました。同年七月十四日の役員会においてもこれらの案件が承認され、会費制導入、毎年総会、それに伴う会則の変更をおこなうための臨時総会招集が決議されました。臨時総会の日程等については、左記のとおりです。会員の皆様におかれましては、臨時総会出席のうえ、会費問題、総会問題について協議いただき、会則変更に向けてご協力くださるようお願い申し上げます。

日時 二〇一九年六月二十二日（土曜日）

受付 午後五時  
開始 午後六時

場所 姫路商工会議所  
兵庫県姫路市下寺町四三番地  
☎〇七九一二三三―六六五〇

二〇二〇年版白陵会名簿 十二月発行予定

現在、二〇二〇年版白陵会名簿作成を、前回と同じく、データー整備専門会社の㈱サラトに委託して準備を進めております。

最近、個人情報保護法の施行に伴い、ややもすると名簿作成に慎重な声も聞かれますが、白陵会では、同窓会活動を今後更に充実させ、発展させていくためには、会員相互の親睦を深めることが大切であり、そのためには同窓会名簿は不可欠のものであると考えております。

会員数も一期生から五十三期生まで九一三八名を数え、日本各地や遠く海外でも活躍されています。

近日中には、会員の皆様に調査カードが届きますので、良く内容を確認し、訂正箇所があれば訂正し、また氏名以外で情報を公開したくない項目があれば「非掲載」と記入して返信して下さい。（在学中のクラブのNo.の間違ひが多くみられますので再確認して下さい。）

もし、訂正が何もない場合でも、必ずそのまま返信してください。

会員の皆様方におかれましては、なにとぞご理解賜り、今回の名簿発行に倍旧のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

す。また、賛助広告掲載をしていただいた同窓生には、名簿一冊が進呈され、掲載料の一部は同窓会活動の一部にもなっておりますのでご協力の程よろしくお願い致します。

尚、転居された場合は、必ず白陵会事務局までご連絡くださいますようお願い致します。

名簿発行における連絡事項

- ・㈱サラトからお送りします調査カードについて、ご返信がない会員の皆様には再度調査カードが届きますが、もし返信されなかった場合、電話での確認作業は行わず、調査カードの記載事項がそのまま記載されますのでご了承下さい。
- ・前回、前々回と名簿をご購入いただきました皆様で返信カードをご返信されなかった場合、名簿購入についての勧誘電話を㈱サラトからかけさせていただきますことがありますのでご理解ください。



# 国の研究機関で 研究するということ

国立研究開発法人物質・材料研究機構  
理事 宝野和博（十三期生）

同窓会誌への寄稿を依頼され、私のような国の研究機関の一研究者が何を書けば良いのか考えがまとまらないまま、引き受けてしまいました。さんざん迷った末、在学生も読まれるとのことですので、理系志望者の将来の進路の選択肢の一つとして国立研究開発法人で研究するということがどういうことかを紹介させていただきます。

白陵の最終年に、私は通信工学の研究者になりたいと思ひ、東北大学工学部を受験しました。ただし、合格したのは第一希望の電子系ではなく、金属系でした。希望に燃えて始まるはずの新学期も半分ふてくされた状態でしたが、二年生後期から専門の授業を受け始めると材料工学の面白さに惹かれて行きました。工学部では約半数の学生が修士課程に進学しますが、博士課程には数名しか進学しません。研究者に憧れていた私は、漠然とした不安を抱えながらも博士課程に進学しました。取り組んだテーマは金属材料の原子を観察・分析することのできるアトムプローブ電界イオン顕微鏡という新しい分析手法でした。経験ある指導者のいないなか、学外の先生に教えを請いながら研究を進めていた縁で、米国のペンシルベニア州立大学の大学院に編入するチャンスが訪れ、アトムプローブを使った金属材料の原子レベル解析で博士号を取得しまし

た。研究者にとって、博士号というのはあくまでスタート地点であり、学位を取ったからといってすぐに大学教員や研究機関の研究職に就けるという訳ではありません。企業を含めて広く就職活動を行った結果、カーネギーメロン大学で博士研究員（ポスドク）の職につくことができ、そこではハードディスク用の磁性薄膜の研究を行いました。四年余りの米国滞在のあと、東北大学金属材料研究所の助手（現在の助教）に採用されました。大学院時代の経験を活かして、当時は日本でも数台しかなかったアトムプローブを製作、それを用いてさまざまな金属材料のナノ構造の研究を行いました。助手は任期がありますので、金属の研究者が主役で活躍できる研究機関ということで、一九九五年に科学技術庁金属材料技術研究所に移動しました。

当時の国研は、大学と異なり、研究費の点では非常に恵まれていました。予算の財源が大学とは異なることから、熾烈な競争を経なくても大抵の学とは桁が違う潤沢な研究費が入って来ましたが、移動前の研究環境を築き上げるには五年程度は必要と思っていました。移動前の研究環境を築き上げていたが、わずか二年後にそれを越えていました。しかも三十五歳で独立したグループを持っていたから、その時の選択は研究者として正しかったと思っと思っています。一方、当時の国研は行政機関でしたから、企業から資金を得て共同研究が出来ない、出張旅費に大きな制約がある等外部の研究者との自由な交流を妨げる制約がありました。二〇〇一年に、国立研究所は行政機関から独立制のある独立行政法人となり、研究資金を企業や研究資金交付団体など外部に求めることと、研究者個人の自由な発想による研究を行えるようになりました。同時に、国立大学は国立研究開発法人となり独立行政法人とほぼ同じ経営が行われるようになりました。この時から、国研の研究者は大学の研究者と同じ土俵で科研費などの外部資金を研究提案書の審査を通して競争的に獲得することになり、競争力のある優秀な研究者を採用できる経営が必要とされるようになりました。私の所属していた金属材料研究所は科学技術庁無機物質研究所と統合され、独立研究法人物質・材料研究機構（NIMS）として新たなスタートを切りました。二〇一五年には研究開発を目的とする独立行政法人は、研究開発の特殊性から、さらに大きな自由度をもつ国立研究開発法人となりました。二〇一六年にはNIMSは産業技術総合研究所、理化学研究所とともに、世界トップレベルの成果を上げるための柔軟な予算配分措置と大胆な権限などを持つ「特定国立研究開発法人」に指定され、物質・材料に関する基礎と応用に関する世界最高水準の研究を行う研究機関となつてい

ます。私はこの間、三次元アトムプローブという材料中の原子の位置を三次元で表示できるユニークな解析装置の開発に携わると共に、電子顕微鏡を相補的に活用して、さまざまな材料のナノ構造を精緻に解析し、その結果からより高性能な材料を開発するという研究に携わってきました。最近の代表的な研究は電気自動車の駆動モータ用の強力なネオジム磁石の基礎研究、高容量ハードディスク用のデータストレージ材料とデータ読み取り用の高感度磁気センサーの開発等、世の中の役に立つ研究を目指してきました。二〇一八年四月からは研究担当理事として、機構全体の研究のマネージメントに携わっています。

入試の結果不本意ながら私の専門となつた材料工学は、基礎科学を応用にまで展開できるチャレンジングな研究領域です。この分野で世界的に活躍するには物理・化学・数学など理系科目だけでなく、しっかりとしたコミュニケーション能力が必要です。研究者は自らが行っている研究の内容を専門外の人に説明する能力が必要です。英語はもはや外国語ではなく、理系における職業言語となつていきます。研究者は大学、研究開発法人、企業と様々な場で活躍出来ますが、長期にわたり基礎研究ができるのは大学が国立研究開発法人です。大学は教育と研究の場であり、研究としては基礎科学が主流ですが、国立研究開発法人では応用を意識した基礎研究が求められています。いま大学教員は教育に伴う業務に忙殺され、大学付置研のスター研究者を除き、十分な研究時間と研究資金を確保するのが困難な状況になっています。その中で、特定国立研究開発法人が提供できる研究環境は研究者にとって極めて魅力的な筈です。NIMSは毎年四月末に大々的な一般公開を行っており、高校生の皆様にも分かり易く材料研究の面白さをお伝えする工夫をしています。少し遠いですが、将来の選択肢の一つを見るためには是非足を運んで下さい。

# OBによる研修会

白陵高等学校  
進路指導部副部長・社会科教諭  
石岡知久（三十九期生）



八月三十一日（金）、高二文系（希望者のみ）を対象に、本校十  
九期卒の尾上尚樹氏による「戦  
略MG研修」をしていただきました。  
経済学部・経営学部・商学部な  
どに興味のある生徒を募り実施。  
内容は、経営シミュレーション  
ゲームで生徒自らが社長となり、

自分の会社の「意思決定」をす  
べて自分一人で行い、経営や会  
計の仕組みを体験するというも  
のでした。本来は、大学生・大  
学院生（東工大や一橋大など）  
・経営者などを対象とした研修の  
ようですが、高校生向けに丁寧  
な解説をしていただき、収支決  
算まできちんと行い、生徒らに  
とって授業では体験できない良  
い機会となり、進路決定の一助  
になりました。

（以下、生徒の感想）

●研修を通して、経営の一側面  
であるが、利益やコストパなど  
色々考えることは楽しかった。  
今まで漠然とした思いでしか  
なかった将来像だったが、や  
はり経済や経営のことに関わ  
りたいと強く思った。

●私たちが実際に知ることがで  
きない費用も多く存在してお  
り、価格はそれも考えた上で  
設定されるということは、説  
明だけではあまり実感がわか  
ないが、ゲームを通してとて  
も納得がいった。



研修で使用するゲーム盤

●経済の勉強をすると、理屈は  
理解していても実感がわかず  
納得いかないことが多くあつ  
たが、ゲームを通じて不景気  
や価格低下など様々な現象が  
手に取るようにわかりとても  
面白かった。また、売上は良  
いつもりでも実際は赤字と  
なっていた時などに、「どうし  
てそうなったのか？」を考え  
ることがとても楽しかった。

●ゲーム中、どうしようか悩ん  
で方向性がはっきりしないま  
ま、中途半端に行動すると上  
手く製造・販売・価格設定な  
どがかみ合わず、意思決定の  
重要さを身に沁みて感じまし  
た。

●初めは感覚的にモノを製造し、  
販売したりしていました。が、  
利益を生み出す仕組みや、市  
場価格の形成のされ方などが  
ゲームを通じて理解でき、二  
回目は計画しながら経営す  
ることができました。また、単  
に販売できれば良いだけでは  
なく、いかに固定費を減らし、  
販売価格を効率的に下げる（価  
格競争に勝つ）ことができる  
かが重要であることも実感で  
きた。

最後に、今後も本校でのキャ  
リア教育を充実させ、生徒の「自  
主的な進路決定」を促していき  
たいと考えております。本校を  
卒業され、多方面で活躍されて  
いるOB・OGの方にご協力願  
うことがあるかと思えます。生  
徒らにとって、本校で自分たち  
と同じように学校生活を送られ  
た諸先輩方の声が一番響きます。  
今後ご支援ご協力よろしくお  
願いいたします。



## 将棋と白陵と私

白陵高等学校 理科教諭

山田 祥五 (四十四期生)

二〇一八年六月、兵庫県将棋アマチュア名人戦で優勝し、県代表を獲得した。決勝では、終盤で形勢を逆転し、難しい戦いを制した。高校選手権で全国優勝、大学選手権で全国優勝したが、社会人になってからは六年ほど県代表から遠ざかっており、長く苦しい時期が続いた。

しかし、三年前から母校の白陵で将棋部顧問として、生徒への指導を本格的に行うようになり、生徒と一緒に勉強をする時間が確保できるようになった。その結果、白陵将棋部では高校生は二年連続近畿大会出場、中学生は二年連続西日本大会に出場し、ベスト八。部員は徐々に力をつけ、いよいよ今年は全国大会に出場できる力がついてきたのではないかと思う。白陵将棋部としては、全国大会優勝が目標である。そのためにもまずは、兵庫県で将棋といえは、白陵一そう噂されるように、全国大会常連校へと作り上げたい。また、男子だけではなく、女子も全国大会に出場できる部活にしていきたいと画策している。藤井聡太の活躍により、世間では将棋ブームが到来したが、白陵にもその波がやって来ないかな…そう淡い期待を抱いている。

二〇一八年九月に全国アマチュア名人戦が開催されたが、思うような結果を残せなかった。二〇一九年の目標は、全国大会に再度挑戦し、生徒と切磋琢磨する中で、そのレベルを生徒に身近で感じてもらいたい。いずれ、プロ棋戦にも参戦し、藤井聡太に挑戦できることを目指し生徒と練習を重ねている。



## 母校に戻って

白陵高等学校 英語科教員

福永 航平 (四十九期生)

現在、私は母校である白陵で、新米の英語科教員として様々な経験をさせていただいております。授業計画、部活動、生徒指導など勉強しなければいけないことは尽きません。折角の寄稿のご機会を頂いたので、今回「授業計画」について教員として働いて感じたことを書かせていただきたいと思います。

授業計画において重視しているのは、「少し背伸びをすること」と「学んだ英語が使えると実感してもらうこと」です。背伸びに関しては、授業の目標が現高校一年生にとってやや難しく思われても、とりあえずそれを設定してみるということです。授業内で頑張ってチャレンジしてみようという白陵生の姿勢にはいつも刺激を受けます。学んだ英語が使えるというのは、授業内で学んだ英語の表現が実際に使えたということだけではなく、授業で英語を通して学んだ内容を他人に伝え、また他の授業やニュースで学んだ内容が英語の授業で深めることができたというのも含めます。それを重視するのは、授業で学んだことが理解でき、それを何らかの形で次につなげることができたときに勉強が楽しくなるのではないかと考えるからです。

教員として授業を行う中で、「伝えることの難しさ」を日々感じています。自分の意図したように伝わらないことも多々あり、反省と実践の毎日です。授業中や後の生徒の様子を見て得られる喜びや悔しさは、働く際の原動力となっています。目の前の生徒の存在を忘れず、常にその課題や自らの問題点について考え続ける教員でありたいと思っております。

## 大学入試試験合格者数

国 公 立 大 学					
大 学 名	30年	29年	28年	27年	26年
東 京 大 学	18	11	16	22	14
京 都 大 学	16	28	15	13	20
大 阪 大 学	13	15	19	30	25
神 戸 大 学	14	12	17	15	16
東京工業大学		2	3	2	3
一 橋 大 学	1	2	1	1	2
岡 山 大 学	9	10	11	10	8
そ の 他	94	85	74	83	80
合 格 者 計	165	165	156	176	168
内医学部医学科計	49	52	38	37	50

私 立 ・ 海 外 大 学					
大 学 名	30年	29年	28年	27年	26年
早 稲 田 大 学	15	24	26	21	23
慶 應 義 塾 大 学	19	21	18	15	23
東 京 理 大	6	15	10	18	10
関 西 学 院 大 学	16	20	9	24	22
関 西 大 学	8	10	5	12	9
同 志 社 大 学	43	40	29	38	27
立 命 館 大 学	23	20	17	16	23
そ の 他	116	90	66	101	69
合 格 者 計	246	240	180	245	206
内医学部医学科計	59	46	32	39	21

※ 国公立大学集計に準大学を含む

## 白陵会役員名簿

役 名	期	氏 名	役 名	期	氏 名	役 名	期	氏 名	役 名	期	氏 名
会 長	3	天野 泰文	常任幹事(広報)	8	前川 裕司	常任幹事(総務)	35	阪本 寛	常任幹事(HP)	51	笹久保茉奈
副 会 長	2	湖中 明憲	" ( 総 務 )	9	手井 幸男	" ( 研 べ )	36	近藤 理恵	" ( 総 務 )	52	稲垣 大翔
"	10	服部 博明	" ( 研 べ )	10	加藤 雅宣	" ( H P )	36	杉岡 央基	" ( 総 務 )	52	富木 琴乃
"	15	町田 直隆	" ( 総 務 )	12	西庵 利彦	" ( 総 務 )	37	岸上真紀子	" ( 総 務 )	53	岡田 弦大
理事(研べ)	3	神吉 裕資	" ( 研 べ 副 委 員 長 )	13	矢野 善人	" ( H P )	37	亀山 信生	" ( 総 務 )	53	後藤 真由
" ( 会 計 ・ 総 務 )	4	岸本 和男	" ( 総 務 )	14	片山 安孝	" ( 総 務 )	38	上野 紘之	校内幹事(総務)	3	黒田 洋
" ( HP 委 員 長 )	6	長野総一郎	" ( 総 務 )	14	竹中 邦夫	" ( 総 務 )	38	堀 素史	" ( 総 務 )	11	小紫 一貴
" ( 総 務 )	8	黒川 仁	" ( 総 務 )	16	田中 正一	" ( H P )	38	住吉 寛紀	" ( 総 務 )	12	畔上 昇
" ( 研 べ )	9	村角 伸一	" ( 総 務 )	18	秋田 直樹	" ( 総 務 )	39	堂國久美子	" ( 総 務 )	12	山口 透
" ( 研 べ 委 員 長 )	10	吉田 達哉	" ( 総 務 )	19	牛尾 英樹	" ( 総 務 )	39	根木 厚	" ( 総 務 )	12	中村 大吾
" ( 研 べ )	10	下村 康夫	" ( 総 務 )	21	河合 恵介	" ( 総 務 )	40	赤澤 剛	" ( 総 務 )	14	久保 博彦
" ( 広 報 副 委 員 長 )	11	志方 正彦	" ( 研 べ )	22	野津 康弘	" ( 総 務 )	40	廣江 祥子	" ( 総 務 )	15	村上 幸生
" ( 総 務 )	11	来栖 昌朗	" ( 研 べ )	23	中里 寛	" ( 総 務 )	41	宮瀬 梨加	" ( 広 報 )	15	西 善弘
" ( 広 報 委 員 長 )	13	水田 堅	" ( 総 務 )	24	奥本 光廣	" ( 総 務 )	41	脇田 直人	" ( H P )	37	神尾 祐輔
" ( 総 務 )	13	飯島 義雄	" ( 総 務 )	24	藤原 省悟	" ( 総 務 )	42	賀川 拓哉	" ( 総 務 )	39	石岡 知久
" ( 総 務 )	15	福永 安洋	" ( 総 務 )	25	多根 正明	" ( H P )	42	宮崎はる香	" ( H P )	39	清水美沙子
" ( 総 務 委 員 長 )	17	岡野 清和	" ( H P )	26	大西 康記	" ( 総 務 )	43	八杉 佳奈	" ( 総 務 )	42	小川 裕人
" ( 会 計 ・ HP )	19	尾上 尚樹	" ( 総 務 )	27	山田 将義	" ( 総 務 )	44	立田 裕昌	" ( 広 報 )	43	野瀬 彩弥
" ( 総 務 )	20	石井 秀武	" ( 広 報 )	28	柿本 晴彦	" ( 総 務 )	44	三木 綾子	" ( 広 報 )	46	川口 澄恵
" ( 総 務 )	23	譜久山 剛	" ( 総 務 )	28	上山 奉伯	" ( 総 務 )	44	柴田 理加	" ( 総 務 )	49	福永 航平
" ( 研 べ )	26	萩原 唯典	" ( H P )	29	岡田 康裕	" ( H P )	45	三浦 学登	顧問(理事長)		三木 一正
" ( 総 務 )	29	山下 展成	" ( 研 べ )	29	浜田賢太郎	" ( 総 務 )	45	向原 沙紀	" ( 校 長 )	11	宮崎陽太郎
" ( 研 べ )	35	中村 亮太	" ( H P )	30	上新 貴弘	" ( H P )	46	藤本 美希	" ( 教 頭 )		高見 繁統
書記(総務)	44	山田 祥五	" ( 研 べ )	31	後藤 大悟	" ( 総 務 )	46	宮脇 規壽	" ( 最 高 参 事 )		斎藤 興哉
会計監査(広報)	23	三木 健史	" ( 総 務 )	31	酒井 雅史	" ( 総 務 )	47	戎 直哉	" ( 特 別 参 事 )	2	川副 義文
" ( 研 べ )	35	安田 孝弘	" ( 総 務 )	31	木下 智晴	" ( 総 務 )	47	中谷 英巴	" ( 元 会 長 )	1	遠山 寛
常任幹事(総務)	1	芝本真須美	" ( H P )	31	村山 稔	" ( 総 務 )	48	井上 千華	" ( 元 会 長 )	1	黒坂 康夫
" ( 広 報 )	1	正井 和野	" ( 総 務 )	32	酒井 勇人	" ( 総 務 )	48	建石 真一	" ( 元 会 長 )	1	黒川 芳一
" ( 研 べ )	4	森崎 晴知	" ( 総 務 )	32	小澤有紀子	" ( 総 務 )	49	立石裕之輔	" ( 前 会 長 )	3	沼田 好道
" ( 総 務 )	5	塩崎 育男	" ( 総 務 )	33	藤井 拓郎	" ( 広 報 )	49	橋本 端季	" ( 前 副 会 長 )	6	上田 喜裕
" ( 研 べ )	5	橋本 義仁	" ( 総 務 )	33	北尾由美子	" ( 総 務 )	50	池上 学歩			
" ( 研 べ )	6	大崎 章快	" ( 広 報 )	34	上垣 孝俊	" ( 総 務 )	50	津田 彩花			
" ( 総 務 )	7	萩本 義郎	" ( 総 務 )	34	牧野 琢丸	" ( 総 務 )	51	佐々木優一			

(平成30年7月14日現在)

## 平成29年度 収支決算報告書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

単位/円

収入の部	予算額	決算額	差異
前年度繰越金	10,181,288	10,181,288	0
会費収入	2,775,000	2,790,000	△15,000
終身会費	2,775,000	2,790,000	△15,000
臨時会費	0	0	0
総会費	0	0	0
会費外収入	65,000	17,448	47,552
名簿収入	10,000	11,400	△1,400
広告収入	0	0	0
利息収入	5,000	1,048	3,952
雑収入	0	0	0
寄付金	50,000	5,000	45,000
総会積立金繰入収入	0	0	0
合計	13,021,288	12,988,736	32,552

支出の部	予算額	決算額	差異
事務費支出	105,000	73,261	31,739
消耗品費	10,000	11,209	△1,209
印刷費	10,000	0	10,000
通信費	60,000	53,044	6,956
支払手数料	20,000	9,008	10,992
雑費	5,000	0	5,000
会議費支出	650,000	343,120	306,880
理事会費	250,000	150,800	99,200
役員会費	350,000	192,320	157,680
委員会費	50,000	0	50,000
事業費支出	1,650,000	1,379,600	270,400
総会費	0	0	0
名簿発行費	0	0	0
会報発行費	970,000	936,613	33,387
ホームページ維持費	100,000	99,792	208
卒業記念品費	380,000	263,952	116,048
慶弔費	200,000	79,243	120,757
備品費支出	0	0	0
OB会活動助成金	270,000	270,000	0
渉外費支出	110,000	60,000	50,000
予備費支出	400,000	0	400,000
寄付金	0	0	0
小計	3,185,000	2,125,981	1,059,019
総会積立金	200,000	200,000	0
次年度繰越金	9,636,288	10,662,755	△1,026,467
合計	13,021,288	12,988,736	32,552

## 平成29年度 会務報告

年月日	内容	年月日	内容
29.5.19	加古川白陵高校同窓会	29.11.25	役員会(忘年会)
29.6.23	理事会	30.2.11	第53期生卒業式
29.6.24	東京白陵高校同窓会	30.2.12	陵医会総会
29.7.8	定例役員会	30.2.17	三会同正副会長会
29.9.29	理事会	30.2.23	理事会
29.10.1	会報第37号発行		

# 白陵会News

### 白陵生の活躍

#### マロニエ賞受賞

昨年十二月に兵庫県公館においてマロニエ賞(スポーツや文化などの分野で顕著な成績をあげた県内の私立学校の学生を県が表彰)表彰式が行われ、科学地理オリンピック日本選手権金賞の高三飛田祐輔君が受賞しました。

#### 科学グランプリ二〇一八

銀賞 岸本竜太君(高三)  
後藤優奈さん(高一)  
銅賞 浅野壮一郎君・小坂田明雄君  
坂元瑞理さん・柴田祐大君  
関森大騎君(高三)  
森芳健司君(高一)

#### 日本生物学オリンピック二〇一八

銅賞 小林空暉君(高三)

#### 物理チャレンジ二〇一八

銀賞 岸本竜太君(高三)  
銅賞 小坂田明雄君(高三)

#### 第三十三回全国高等学校文芸コンクール

入賞 田中之葉さん(高一)

#### 第四十二回兵庫県高等学校総合文化祭

第七回文芸部門コンクール  
部誌部門  
優良賞

散文部門  
最優秀賞 田中之葉さん(高一)

俳句部門  
最優秀賞 高田莉那さん(高一)

#### 第二回日本共生生物学会

最優秀高校生ポスター発表賞  
小野夏実さん(高一)

#### 兵庫県学生ピアノコンクール(中学生の部)

最優秀賞 伊藤陽莉さん(中三)

#### 福井国体馬術(少年・標準障害飛越競技)

六位 児島叶和さん(中三)

### 白陵会物故者

福永久夫氏(三期生)  
平成三十年五月 逝去

小倉吉洋氏(十九期生)  
平成三十年四月 逝去

春名美季氏(五十二期生)  
平成三十年一月 逝去

心よりご冥福をお祈りいたします。

### 転退職教職員紹介 平成三十年三月

芳木健憲先生(国語)  
昭和四十六年四月～平成三十年三月 四十七年間

福井孝昌先生(理科)  
昭和五十年四月～平成三十年三月 四十三年間

南坂 繁先生(数学)  
昭和五十二年四月～平成三十年三月 四十一年間

覺野洋一先生(英語)  
平成十三年四月～平成三十年三月 十七年間

牧野高人先生(理科)  
平成二十六年四月～平成三十年三月 四年間

木坂友美職員(事務)  
平成二十二年四月～平成三十年三月 八年間

玉垣琴葉職員(養護)  
平成二十八年四月～平成三十年三月 二年間

### 編集後記

二〇一九年も一か月が過ぎ、漂う香りも雛梅から梅へと移ってきました。昨年は自然界は地震などの災害が続き、政治・経済・社会も波乱の多い一年でした。後世の歴史家はこの一年、さらにはこの数年をどのように評価するのでしょうか。

さて、「白陵会」は、今年、新たなページを開こうとしています。五十四期、九三〇〇名超の情報交換・交流の場として機能していくことが、「会」そして「会員」の可能性を拡大します。在校生や若い卒業生が将来を考える一助ともなります。同窓生の皆様の「おかげ」で会報は成り立っています。各期・各地域・各職域での情報をよりよくお願いします。なお今号の発行は臨時総会開催に合わせ三月発行となります。(T・M)